

有島曉子 （幼名） 隨筆家。明治四十四年八月二十一日東京生れ、昭和五十七年七月五日歿（九二一八二）。双葉女學校卒業後、父有島生馬とフランスに渡り翌年歸國、辰野隆指導下でフランス文藝を學ぶ。昭和十年歐米歴遊、二十二年ベルギー大使館勤務。三十二年フランス人の哲學者ガブリエル・マルセル來朝の際には、滞在中秘書を務め、「マルセル博士滞在日記」を書いた。翌年からほぼ十年、上智大學女子學生指導官となる。四十六年 昭和天皇 皇后訪歐に通譯として隨行。

『有島曉子著作集』（昭和四十六年十月二十九日中央出版社）には、前述の滞在日記を始め、伯父有島武郎を語つた數篇も収録。遺稿集として『松の屋敷』（昭和五十八年七月二日のまくら春秋社）が出版せられた。

